

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	城東区
学校名	大阪市立城東小学校
学校長名	松本 康之

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立城東学校では、第6学年 78名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

[国語]

- 平均正答率：57.1%（本校） 大阪市65.0%・全国66.8%を下回る。

[算数]

- 平均正答率：58.0%（本校）／平均無解答率：3.4%（本校）

平均正答率は大阪市・全国と比べて同水準～わずかに下。

[理科]

- 領域別（エネルギー／粒子／生命／地球）は、大阪市・全国を下回る。

[質問紙調査]

- 読書時間が10分未満の児童の割合が、全国より高い傾向がみられた。

- 自己肯定感や、将来の夢・目標に関する肯定的な回答は、比較的高い傾向。

- 端末を用いた整理・発表や、友だちと考えを共有する活動への肯定感が相対的に高い。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

■ 成果

- 「図形」「変化と関係」など、算数の一部領域では全国・市と近い水準を保っている設問群が確認でき、基礎事項で堅実に得点できている土台がみられる。

- 国語・算数・理科の平均正答率・無解答率の推移から、設問形式や領域により得点のばらつきはあるが、無解答の過多は抑制されており、設問への取り組み姿勢は維持されている。

■ 課題

- 国語では「書くこと」「情報の扱い方」に弱さが残り、段落構成・図表の言い換え・出典の明示など根拠に基づく表現の型が不十分。

- 算数では「数と計算」「データの活用」が相対的課題。割合・小数／分数の意味のつながりや、代表値・百分率・グラフ読解から説明文につなぐ力の強化が必要。

- 理科は4領域とも全国平均を下回り、特に「エネルギー」領域の差が大きい。

質問調査より

■ 成果

- ICT活用への自己効力感が高い（情報整理・スライド作成・友だちと考えの共有など）。協働で学ぶ／分かりやすく伝える活動への肯定的回答が目立つ。

- 自己肯定感・将来の目標に関する肯定的回答が比較的高めで、学びへの関与意識がうかがえる。

- 学校側では、端末の“日常活用”と家庭・児童・教員の往還が定着。課題設定→話し合い→まとめ・表現の学習活動も継続的に実施。

■ 課題

- 読書時間では「10分未満」の回答割合が相対的に高く、日常の読みの量・質の確保が課題。

- 取組の学年・場面差が残るため、出典明示・図表の言い換え・1文結論など“表現の型”的な全般的な共通化が必要。

今後の取組(アクションプラン)

○ 共通の“学びの型”を全教科で統一

できないことをできるようにするための学習サイクル「けテぶれ学習法」と、わからないことをわかるようにするための思考法「QNKS思考法」を各教科でテンプレ化して活用させる。また、各授業で、内容をまとめたり、ふりかえったりする際には、「1文主張（結論→理由→根拠）+出所タグ（本文／図／表）」をノート等に書かせることにし、書く力の向上にアプローチする。

○ 理科の授業改善

単元にもよるが、予想→方法→結果→考察を型化する。また、複数の教員で、理科のよりよい授業づくりを目指していく。

○ 読書習慣の定着

毎週1時間の「図書」の時間を活用した読書・読み聞かせの充実に加え、各家庭での読書を推奨する「家読ログ」（端末）を提案・実施する。また、司書や地域（おはなしクレヨン）と連携した取組で“読む量と質”を無理なく伸ばす。

